

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 若園 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

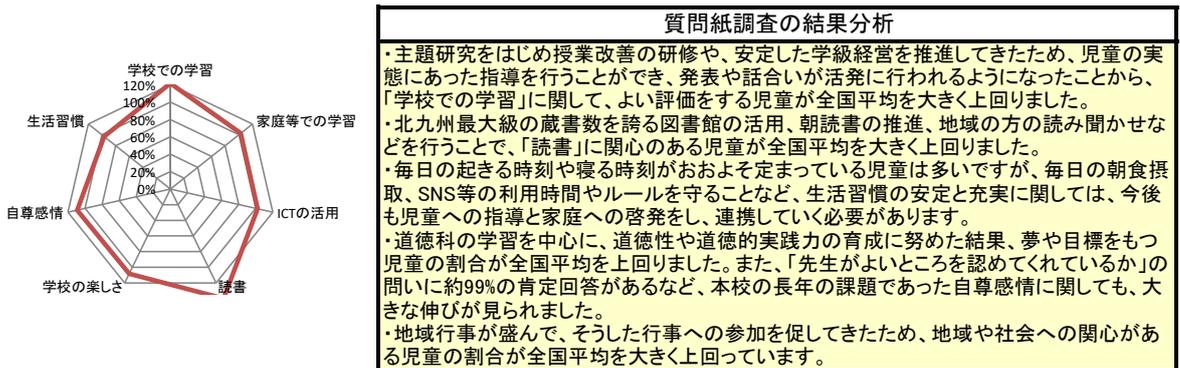
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	平均回答率の全国との差が同程度まで上がりました。特に「書くこと」の分野において、自分の考えをまとめ、記述することは全国平均を上回っています。しかし、選択式の問題形式では、全国の平均回答率を若干下回っており、課題があります。	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	漢字を文の中で正しく使うこと。人物像や物語の全体像を具体的に想像して書くこと。	同程度である
	努力が必要な問題	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。表現の効果を考え、内容として適切なものを選択すること。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国の平均回答率を上回りました。学習指導要領のA数と計算領域、B図形領域では、全国平均を上回っています。問題形式別にみると、短答式・選択式・記述式のすべての観点で全国平均を上回りました。	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直すこと。目的に合った数の処理の仕方を考察すること。	上回っている
	努力が必要な問題	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めること。分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察すること。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国の平均回答率を上回りました。学習指導要領のA区分「粒子」B区分「地球」を柱とする領域では、全国平均を上回っています。問題形式別にみると、短答式・選択式・記述式のすべての観点で全国平均を上回りました。	全国平均正答率との比較
	よってきた問題	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと。	上回っている
	努力が必要な問題	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見だして選ぶこと。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・日常的に書く活動と話し合う活動を位置付け、児童が自身の考えを表出できるように授業改善を図ってきた結果、話し合いに積極的に参加し、自分の考えを深めたり広げたりできるようになったと回答する児童が顕著に増えました。今後も児童が見通しをもって主体的に取り組み、確かな力が身に付くような話し合い活動を、全教科・領域で推進していきます。

・国語や算数の基礎的、基本的な問題を集約した、本校独自の「わかつこチャレンジノート」の活用の成果が見られるようになりました。今後も継続的に毎日15分間の朝自習に取り組みます。朝自習は週に2回の国語タイム、2回の算数タイム、1回の読書(読み聞かせを含む)タイムとして、全校一斉に取り組むようにしています。

・文中で適切な漢字を正しく使う課題については、家庭学習も含めドリル学習を徹底し、書いて覚えたりドリルアプリを使ったりして継続的に練習するように今後も励みます。

・GIGA端末を学習の中でもっと活用していきます。児童が調べ学習を行う際はもちろん、友達と意見を交換したり、自分の意見をまとめ発表したりする場面でも活用していきます。

・読書への高い関心を生かし、物語の登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に考える活動を取り入れていきます。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・携帯電話・スマートフォンの使い方に関しては、学級で折に触れて指導するとともに、学校・学年通信等を通して、保護者へさらなる啓発を図ります。また、ゲストティーチャーを招聘し、より切実感のある指導ができるようにしています。

・食育の取組や家庭科の学習を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣や読書習慣が身に付くようにします。

・家庭学習については、学校の授業時間以外で普段(月～金)、休みの日に1時間以上勉強に取り組むようにしています。自主学習ノート等を活用し、自分で計画を立てさせたり、学習課題を提示したりして、基礎的、基本的な学力の定着を図っています。

・みんなで守る「わかつこ あまがえる+1」の取組をさらに充実させ、学期に一度振り返る場(カード)を続けることで、基本的な生活習慣の安定を図り、今後も互いが気持ちよく生活できるようにします。